

品種 大果率が高く良質のいちご促成品種「さちのか」

いちご促成品種「さちのか」は果実の大果率、糖度および硬度が高く、品質に優れる。



左：さちのか 右：女峰

来歴 母親：「とよのか」 父親：「アイベリー」
 交配年：昭和62年
 育成地：野菜・茶業試験場久留米支場
 (現・独立行政法人九州沖縄農業研究センター)
 品種登録：平成12年
 休眠特性：さちのかの休眠は「女峰」と同様に浅く、
 休眠打破に必要な5℃以下の低温遭遇時間は
 150～200時間とされる。

表1. さちのかの収量性および大果率、商品果1果重

品種名	商品果収量 (kg/a)	総収量 (kg/a)	大果率 ¹ (%)	商品果1果重 (g)
さちのか	376.2	389.5	37.5	10.9
女峰	390.4	437.5	10.4	9.0

「さちのか」は収量は「女峰」よりもやや低いものの、平均1果重、大果率は「女峰」よりも高く、規格に優れる。

1) 大果率：15g以上の商品果収量/全商品果収量×100

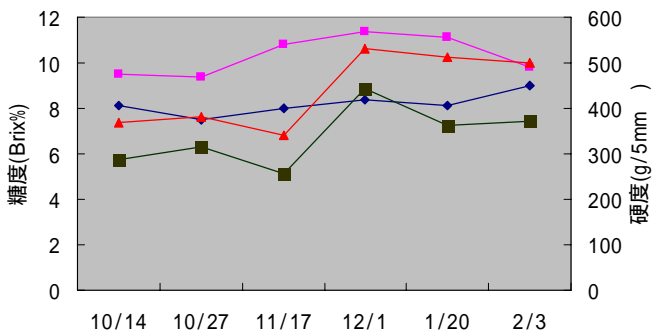


表3. 食味官能評価

品種名	酸味	香り	甘さ	硬さ	全体評価
さちのか	3.3	3.3	3.1	4.1	3.7
女峰	2.9	2.4	2.6	2.6	2.8

1) 硬さは「1.柔らかい」～「5.硬い」、香りおよび全体評価は「1.悪い」～「5.良い」、酸味および甘さは「1.少ない」～「5.多い」のそれぞれ5段階による。

「さちのか」は「女峰」より硬度、糖度が高く、果実品質に優れる。

栽培上の注意点

花芽分化を行なう半休眠状態を長期間維持するため、第一えき花房分化期以後に保温を開始し、最低気温5℃以上で管理する。

11月中下旬より日長延長方式により3～4時間の電照を開始し、厳冬期は草丈25cmを目標に管理する。休眠から覚醒してくる2月末以降は顕著に新葉が立ち上がってくるため、新葉の立ち上がりの状況を見て、電照の打ち切り時期を判断する。